事例No.	2815
公表年度	R5
団体の属性	一般市
団体名	香川県三豊市

事例区分	行政改革

タグ	・新たな政策手法の確立・活用 ・観光 ・関係人口

事例種類	地域資源の活用

事例内容・タイトル

観光振興と官民の関係資本を核とした地域商社形成

出典

令和５年度ふるさとづくり大賞事例集

ふるさとづくり大賞　地方自治体表彰



観光振興と官民の関係資本を核とした地域商社形成

香川県三豊市（みとよし）

DATA

事　例　名：三豊市産業政策課「観光振興と官民の関係資本を核とした地域商社形成」
所　在　地：香川県三豊市高瀬町下勝間2373番地1
連　絡　先：TEL 0875-73-3012
FAX 0875-73-3022
E-mail sangyou@city.mitoyo.lg.jp
ホームページ：https://www.city.mitoyo.lg.jp/index.html

取り組みの概要

父母ヶ浜での「天空の鏡の写真」が注目を浴び、多くの観光客が訪れるようになった三豊市。この人気を一過性のムーブメントに終わらせないためにも、新たな取り組みが市の課題としてあった。そこで、地域内外の人材が協働するコミュニティをつくることにより、既存の概念に捉われない、地域自走型の仕組みを確立。地域の発展に大きく寄与している。

評価された点

●2015年に約5千人だった来訪者は約50万人と100倍近くに増加。次々とリスクをとった創業が続き、成功する好循環が生まれており、2022年から「三豊ベーシックインフラ整備事業」として市民生活に必要なサービスを地域企業と構築していく計画があり、それに必要となるデータ連携基盤の構築に取り組んでいる点を評価。

●従来の指定管理制度運用ではなく、指定管理者やプロジェクトのメンバーとの関わりにより、行政コストを抑えながら、民間の活力を発揮してできる環境を整えている点を評価。

●「天空の鏡の写真」をきっかけとしたブームをきっかけに、地域のなかで新たな取り組みを進め、展開を図っている点を評価。

取り組みのプロセス

取り組みを実施するに至った要因・背景や地域課題
その取り組みを実施するに至った要因・背景や地域課題について記載。

行政や外部からの支援
行政や外部からの支援などについて記載。

きっかけ　1994年～

・父母ヶ浜での海岸埋め立て構想に反対意思を示すため、地元有志が海岸清掃を開始。「ちちぶの会」が結成され、現在に至るまで、取り組みは継続されている。

・父母ヶ浜の美しい景観を後世へ残していきたいという想い。

2017年～

「天空の鏡の写真」に端を発した観光客の急増

・父母ヶ浜での「天空の鏡の写真」が注目を浴び(2017年)、観光客が急増。
・この人気を一過性のムーブメントに終わらせないためにも、新しい取り組みが必要となった。



・「内閣官房まち・ひと・しごと創生本部」と民間企業主体で構成される「ふるさと名品オブ・ザ・イヤー」から成る「地域商社協議会」のサポート。

2017年～

地域商社瀬戸内うどんカンパニーの設立

・地方創生交付金を活用し設立。
・うどん作りができる体験型の宿泊施設として注目を浴びる。



・増加し続ける観光客が地域に長く滞在できるよう、宿泊施設の整備に課題。

2018年～

さまざまな宿泊施設の開業

・観光客の受け皿として、民泊を中心にさまざまな宿泊施設が開業し、現在約90件が営業中。
・近年開業した、ゲストハウスの一つ「URASHIMA VILLAGE」は、外資からの提案があった中、“自分たちで持続的な地域経済循環モデルを構築する”ことを選択し、地元企業を中心とした11社が集結して出資メンバーとなり、それぞれの専門性を生かした宿づくりを実現。



・観光客が急増した父母ヶ浜の受入れ体制に課題。

2019年～

父母ヶ浜海水浴場管理事業

・指定管理事業を事業者が無償で受託。
・市が“新たな魅力・価値を生み出すこと”をコンセプトとしたことで、15の法人と約30本のプロジェクトが創出。



2022年～

一般社団法人三豊市観光交流局発足

・魅力情報発信を強化し、交流人口、関係人口のさらなる拡大を目指し発足。

今後の展望

・市と地域、事業者が相互で信頼関係を構築しており、事業者が自走していける仕組みが出来ているため、この流れの加速が期待できる。
・発足した観光交流局を軸に情報発信を強化し、交流人口、関係人口のさらなる拡大が期待できる。

受賞者のコメント

1枚の写真と地域商社の設立を契機として、地域外からの人の流れを観光、産業面での大きなムーブメントにつなげることができました。今回の受賞は地域内外の皆様の熱量の賜物であり、行政・民間それぞれの立場で協働して取り組んできた一つの成果です。今後も自らがやりたいことに挑戦し、無いものがあれば自ら作り出していく地域のプレイヤーをサポートできるよう、チャレンジする土壌のあるまちとして持続・発展を目指します。